

# 1月・2月の管理ポイント

 ホームページアドレス  
<http://www.tomo-green.com/>

第121号



明けましておめでとうございます。

去年は、抗ストレス剤『レボ』、ジアミド系殺虫剤『スティンガーフロアブル』をはじめ、弊社推進商品を多くのゴルフ場の皆様に、ご利用頂きまして、誠にありがとうございました。

本年も変わらぬご支持を頂けますよう社員一同頑張っていきたいと思えます。

今月号は、2013年のスタートですので、春先からのレボの使用方法について紹介させていただきます。



## 春先(3~5月)

春の水管理が、芝生の根をしっかりと伸ばすポイントです!!

レボは**土壌粒子の表面を極端に薄い膜で覆います**ので、土壌中の空隙率がアップし、表層の過湿を防ぎます。

この効果が、**グリーンの表層を少し乾燥気味にし、根に軽いストレスを与えるため、根の伸長活動を活発にさせます。**

定期処理することによって、根が下に伸びやすい環境を整えてやり、夏が来るまでにしっかりとした根域が形成できるように管理していきましょう。

4月よりベントの本格的な生育最盛期になります。レボ+光合成細菌を定期処理することで土壌表層の通気性を確保し、昨年末から蓄積されてきた悪臭物質を減らしていきましょう。また地温の上昇に伴い、土着菌の活性も上がって行きます。

最初に土着菌の勢いを付けさせるために、動物性アミノ酸たっぷりのマリンパワーを処理して、土壌を動かしておきましょう。

使用量：レボ	2ml/m <sup>2</sup>	散布水量：200ml~1L/m <sup>2</sup>	散布回数：1ヶ月に1回
光合成細菌	1~2ml/m <sup>2</sup>	散布水量：1L/m <sup>2</sup>	散布回数：1ヶ月に1~2回
マリンパワー	2ml/m <sup>2</sup>	散布水量：1L/m <sup>2</sup>	散布回数：1ヶ月に1回

# 冬期のドライにご注意を！！

12月～2月の冬期はゴルフ場のオフシーズン、ベントも一時的に生育を止め、グリーン上での管理作業は限られたものだけになってきます。しかし、この時期の管理作業を疎かにすると、その後のシーズンのグリーンコンディションを低下させてしまう恐れがあります。

そんな作業の代表格が“水管理”、今回は冬期のドライの特徴をご紹介します。

## 冬期のドライの問題点

### ①同一グリーン内の土壤水分値のバラつきが激しくなる

降雨、散水の頻度が少なくなるため、同一グリーン内でも場所による土壤水分値の差が大きくなります。

### ②ベントの休眠、着色剤の散布などにより被害が顕在化しない

夏期よりも被害が顕在化しにくいいため、放置され重症化しがちです。

冬期ドライ箇所  
水分値：5.0～10.0%

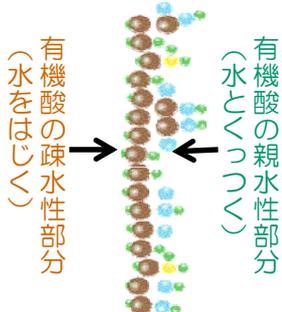
健全箇所水分値：15.0～25.0%程度

(※水分値はあくまでも目安であり、土壤環境により適正值は異なります)

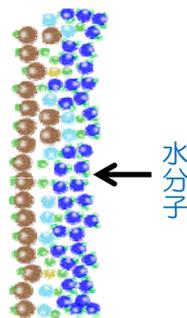
### ③有機酸の撥水物質化による根本的な撥水土壌化が進む

夏期に比べるとグリーン全体の土壤水分値が低く、土壤粒子の周りに付着した有機酸が撥水物質化しやすい時期です。(詳しくは管理ポイント2012年7・8月号参照)

#### 有機酸の基本構造

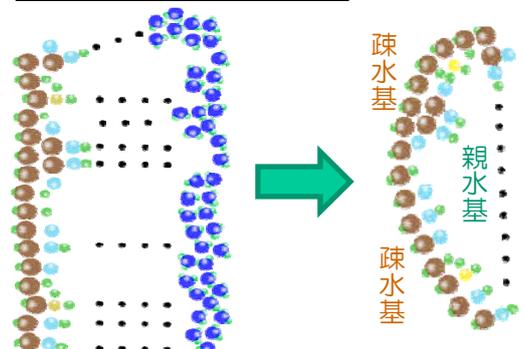


#### 土壤水分が十分にある状態



有機酸の親水性部分が水分子と結合し、安定した状態を保っている

#### 土壤が乾燥すると...



水分子と結合できないと、有機酸内の親水基同士がくっつきあってしまい、疎水基が表面に出てきてしまう

このように、冬期のドライは発見しにくい上に、放っておくと根本的な土壤粒子の撥水化を招き、シーズン通してドライ発生の原因となります。こうした事態を避けるためには、グリーン内の乾燥しやすい場所をしっかりと把握し、冬場でも浸透剤を定期的に散布するなど、意識的な水管理を行うことが重要です。